

京都市基本計画審議会 第5回活性化部会
摘 録

日 時：平成22年4月5日（月）9：30～12：00

会 場：本能寺文化会館 5階ホール

出席者：

| | | |
|--------------------------|------------------------|--|
| ○ <small>あきづき</small> 秋月 | <small>けんご</small> 謙吾 | 京都大学大学院公共政策連携研究部教授 |
| <small>いちかわ</small> 市川 | <small>みつぐ</small> 貢 | 北区基本計画策定懇談会座長，京都産業大学経営学部教授 |
| <small>いわい</small> 岩井 | <small>よしや</small> 吉彌 | 元京都大学大学院農学研究科教授 |
| <small>かしはら</small> 柏原 | <small>やすお</small> 康夫 | 株式会社京都銀行頭取，社団法人京都市観光協会会長，社団法人京都府観光連盟会長 |
| <small>かわむら</small> 河村 | <small>りつこ</small> 律子 | 立命館大学国際関係学部国際関係学科准教授 |
| <small>しのはら</small> 篠原 | <small>そういち</small> 総一 | 同志社大学大学院経済学研究科教授 |
| <small>たかしま</small> 高嶋 | <small>まなぶ</small> 学 | 京都府政策企画部長 |
| <small>たなか</small> 田中 | <small>しょう</small> 翔 | 公募委員 |
| <small>つじ</small> 辻 | <small>としこ</small> 俊子 | 公募委員 |
| <small>にしむら</small> 西村 | <small>あけみ</small> 明美 | 柊家株式会社取締役 |
| <small>ひらい</small> 平井 | <small>せいいち</small> 誠一 | 京都市未来まちづくり100人委員会代表幹事，株式会社西利代表取締役専務 |
| ◎ <small>ほりば</small> 堀場 | <small>あつし</small> 厚 | 京都経済同友会特別幹事，株式会社堀場製作所代表取締役会長兼社長 |
| <small>まつやま</small> 松山 | <small>だいこう</small> 大耕 | 未来の担い手・若者会議U35議長，妙心寺塔頭・退蔵院副住職 |

以上13名

◎…部会長，○…副部会長

(50音順，敬称略)

1 開会

2 議事 基本計画第1次案「分野別方針」・「行政経営の大綱」について

堀場部会長

年度当初のお忙しい中、お集まりいただきお礼申し上げます。忙しい時ほどいいアイデアが出てくるものである。

先日、中国、アメリカ等を訪問したが、私の感覚として、中国は3,4箇月単位で変化している。また、行政職員も含めて非常に人懐こく、頭が良く、スタンスが変わってきたと実感した。大学も訪問したが、ドイツやアメリカから引き抜かれた総長、学部長などが学生を教えており、最新の設備もそろっている。日本の優位性がなくなってきたと感じた。また、アメリカもレストランやホテルの予約が取れないなど、観光、ビジネスの訪問客が多い。

それぞれの国で環境は違うが、日本に比べ、はるかに進んだ状態で景気が回復している。議論も大事だが、実行できるところからどんどん進めていくスピードが大切で、このままのピッチでは遅れをとると実感した。

いかに計画に具体性を持たせるかが大切。本日の会議の進め方は、テーブルを移動しながら、少人数で議論する。形だけでなく、中身のある議論をお願いする。

事務局から以下の資料を説明

- ・ 第5回活性化部会・プログラム
- ・ 基本計画第1次案「分野別方針」※・「行政経営の大綱」
(※産業・商業、農林業、観光、大学、国際化)

———— (テーブル毎に議論：議論の結果は別紙参照) ————

堀場部会長

本日の議論を踏まえ、4月12日の融合委員会に向け、事務局に御意見を反映していただくが、表現はまかせていただきたい。

本日を振り返り、簡単に私の意見を述べると、全体的にシンプルに表現し、重要なものから書くというメリハリが必要ではないか。総花的に書くと何も起こらないことになる。横文字をなるべく使わず、一般市民に分かりやすい形で御検討いただきたい。

———— (事務連絡) ————

3 閉会

第5回活性化部会における意見の分類

■テーマ 商業・産業

| 意見の分類 | 素案の内容 | 委員意見 |
|-----------------|---|--|
| 分野別方針記載項目に関する意見 | 産業・商業全体 | 観光とくらべて産業・商業は全体的に表現が総花的に感じる。ポテンシャルを生かすのも大事だが今あるものを生かす観点を。 |
| | 基本方針 | <p>「ものづくり」「ものがたりづくり」「ひとづくり」</p> <p>「ものづくり～」とあるが、「ことづくり」(＝サービス、イベントづくり)の観点も必要では。外国人に向けた「ことづくり」を行う。また、「ことづくり」を「文化」などの観点と結び付けてみるなど。「ものがたりづくり」とはあまり使わないのでは。</p> <p>「ものがたりづくり」は違和感がある。3つ並んでいるがバランスが悪い。「ものがたり」の言葉を大きくとらえていくのは面白いが、表現を考える必要がある。</p> <p>「ものがたり」は観光に繋がる。物語性を求めて京都に来る人が多いはず。</p> <p>「もの」、「ひと」、「こと」の3つをトータルで含めてつくるのが「ものがたり」では。</p> |
| | みんなで目指す10年後の姿 | 1つ目○～4つ目○ 伝統文化といった言葉が並んでいるが、決まり文句がなっている印象。まとめ直す必要がある。 |
| | クリエイティブな産業を生み出すまちとなっている 修正すべき内容 追加すべき内容 | <p>クリエイティブ産業について具体的な産業が挙げられているが、これらについては付加価値は高いと考えられる。</p> <p>「みんなで目指す10年後の姿」の上から4つは錯綜して、軸が複雑。まとめる方法があるのでは。</p> <p>まとめようとする総花的になるのでポイント的に書くべき。行間を読む人用に作るべき。ほとんどの人が全文は読まないものである。</p> <p>どこかのマニフェストと同じになる。具体性のある表現を。実務と目標に乖離がある。委員が踏み込んで、行政が実行する計画にすべき。</p> <p>人口減少社会について、京都市そのものを考えたときに人口減少を止める政策がないといけないのではないか。市域・府域で輸出の観点はあるが、内需が意識されていない。工場や大学を排除した政策から産業立地や人が集まる施策に転換すべき。景観条例の地域と、南部地域など人口の集積地域を分けてつくるべき。府・市に産業が増える仕掛けなど、市内部でも活性化させるべき。</p> <p>人口が減らないように具体的にどうやるのか。インフラを整備した後、工場、そして住宅地を誘致するのが普通の順番。日本は逆。今から高速道路などインフラ整備は無理。</p> <p>御所南など、教育が注目されて人口が増加している地区もある。</p> <p>低価格の衣料品がもてはやされている。産業は活性化するが、(ものづくり、高付加価値をめざす)日本の本来の姿ではない。付加価値を上げないといけない。一方で産業を興すのも大事である。両面性がある。</p> |
| 政策指標 | 製造品出荷額等に占める粗付加価値の割合(付加価値率) | 政策指標について、付加価値率は抵抗がある。現状でも京都の小さな工場などは様々な作業をこなしている等、付加価値率は高いかもしれない。 政策指標の一番目に付加価値率が入っている理由が分からない。 |
| | 全国に占める年間商品販売額の割合 | 政策指標の2番目であるが、産業・商業の目標を目指すうえで、現況値をいくらか上げると、京都全体の活性化につながっていると言えるのか。乖離しているのではないか。指標としてこれでよいのか。 課題につながる指標にすべき。具体的なレベルで地域の商業の活性化のためにどういう政策をするのかという観点が欲しい。2番目の指標は京都の活性化にどうつながるのか疑問。小売店が集まれば京都が活性化したといえるのか。 |

第5回活性化部会における意見の分類

■テーマ 商業・産業

| 意見の分類 | 素案の内容 | 委員意見 | |
|-----------------|--------------------------|---|---|
| 分野別方針記載項目に関する意見 | 政策指標 全国に占める年間商品販売額の割合 | 全国と比べてではなく、今の状態からどれだけ数値を上げるかということを示すべき。実態がないようなものではなく、京都のローカルな面に焦点をあてた具体的な指標を。 | |
| | 追加すべき指標 | 政策指標は数値として掲げておくのは大切かもしれない。京都の相対的な所得は下がってきている。指標として所得向上目標は掲げられないのか。わかりやすい表現にすべき。付加価値率は一般の人はわからない。普通に仕事している人がわかる表現に。全てキャッチフレーズと同じである。「所得倍増」のように、ひとりひとりのレベルをあげる努力をさせるような言葉を。指標については研究してもらう必要がある。 | |
| | 市民と行政の役割分担と共汗 | 市民の役割 | 市民参加は言葉だけきれいで印象が悪い。市民が加わって議論すれば市民参加というのではない。地域で町内会に参加するなど、地道なところから始めることではないか。いきなり市民参加の概念を入れるのは無理。そういう点が意外と理解されていない。市民と行政がギブアンドテイクでいく。行政からサービスを受取る代わりに、あなたは京都市のためになにができるか。京都の商業を応援しましょう、と京都市民に呼びかけるようなことが必要では。例えば、京野菜を使う、京都産をみんなで買おうというような表現も考えられる。京都の活性化にみんなで力を尽くしましょう、と市民に意識付けをする。例えば地産地消など。 |
| | | 行政の役割 | どれをするにも具体的には市が動かざるを得ない。高さ制限はルールだが、活性化するにはきっちりといひもの悪いもののルールの再整備をしてもらいたい。企業が流出するなど、ロスしていることはたくさんある。大学の許認可についても同じような状況である。景観を守るところは守り、自由にするとところは進めるといった割り切りがなぜできないか。様々な事業を管轄する部署がまたがっている。誰に話をしていいのかわからない。 |
| | | 行政、事業者の役割 | 京都は産業のバランスが取れている。いろんな産業をやりやすい一方、宣伝をしていないため、外国ブランドに比べて疲弊している。誰も京都の伝統的な産業を海外向けにプロモートするなどビジネス化していない。行政や事業者が外向きのベンチャー志向の人を育てるのが大切。 |

第5回活性化部会における意見の分類

■テーマ 観光

| 意見の分類 | 素案の内容 | 委員意見 | |
|-----------------|---------------|---|---|
| 計画全体に関する意見 | | 第2回活性化部会整理メモの「ステークホルダー」は一般の方が分からない。国際化すること、横文字を使うことはちがう。一般の言葉で書く配慮を。 プライオリティをつけ、焦点を絞って、シンプルに書くべき。 | |
| 全体を貫く価値観について | | 資料「活性化部会のまとめ」の「ブランディング」について。企業ブランディング、商品ブランディング、都市ブランディングなど様々なことが考えられるが、「コミュニティブランディング」は新しい。キーワードとして打ち出していったらどうか。 産業、農林業など全ての政策において、子どもの頃の学びが必要。子どもに京都のよさを伝えるべき。教育分野との連携も必要。 | |
| 分野別方針記載項目に関する意見 | キャッチフレーズ | キャッチフレーズが大切。全てをまとめようとすると、何かの観点が外れてしまうが、キャッチフレーズはポイントを絞り明快にすべき。 | |
| | 基本方針 | 「量の確保」とあわせて、「質の向上」を図り～ | 質を高める、クオリティを上げる。量から質への転換 宿泊単価の高い層を呼び込むなど、京都は「質」を取るといった観点を。 |
| | | いつでも、誰でも、安心安全かつ快適に観光できる受入環境を目指す | 観光施策を経済的観点だけではなく、市民が過ごしやすいまちに。観光客にやさしいまちは住民にも優しいまちのはず。事業者が儲ける視点だけではなく、協力者を増やす観点も必要。 |
| | | 追加すべき方針 | スマート、スピード、シンシアリティ(信頼に応える)という観点を。京都のまちならではの観点を。 |
| | | 現状・課題 | 国際コンベンションは世界でも20位以下、国内でも2位から4位に転落 昔より会議規模が大きくなって、開催場所の候補から京都が外れている現状がある。 ジュネーブには常駐の国際機関が集まっている。重要なことである。 5,000人規模のコンベンションには不満もある。10,000人規模でできないか。景観問題があるので会議場と同じ場所では出来ないが、別のところで作る。 5,000人規模でなんとか足りると思うが、大きいホテルがない。高さ規制がかかっている。 MICEでは中規模の会議を狙っている。小規模の会議は網羅していない。小規模の会議ではホテルが振り向いてくれない。場所を探すのが大変。ただ、小規模にも少し目を向けてもよいのでは。 |
| | みんなで目指す10年後の姿 | 「みんなで目指す10年後の姿」全般 | シンガポールみたいに「まちを緑で埋め尽くす」など分かりやすい姿、具体的なまちづくりの方針がない。抽象的と感じる。 |
| | | 国際MICE都市 | MICEにより力を入れるべき。京都の国際会議場は小さすぎる。5,000人規模にするべき。思い切って京都市として掲げるべき。 |
| | | 新しい魅力が創出され | 10年後に観光資源をさらに増やす観点が無いのでは。 |
| | | 京都が有する世界に誇る財産を、子どもから学生、大人まで～ | 子どもたちへのアプローチを。京都について子どもの頃からきっちり教えていくことが出来れば、成人になった際に本当に京都を思う市民が増えていく。教育との連携を。 子どもが京都に来て遊ぶところがない。子どもにとっての魅力がない。 |
| | | 追加すべき内容 | 科学的な検証も必要だが、なぜ世界の中の京都市であるかと明確なものが必要。国際化をきっちりやるためにはそれなりの規模のハード整備も必要。 中規模の会議に割り切るならば質をあげる工夫を。 |

第5回活性化部会における意見の分類

■テーマ 観光

| 意見の分類 | | 素案の内容 | 委員意見 |
|-----------------|---------------|-------------------|---|
| 分野別方針記載項目に関する意見 | みんなで目指す10年後の姿 | 「みんなで目指す10年後の姿」全般 | 高級ホテルの誘致をストップしているのか。富裕層が泊まる世界基準のホテルがほとんどない。基本的なこと(ハード整備)をもっとやるべき。整備して誘致すれば質の高い観光客がしっかり来るはず。 |
| | 政策指標 | 乗用車による入洛率 | 乗用車による入洛率に関して、駐車場スペースの確保、電気自動車の配備など、インフラ整備をできる可能性はあるのか。 ----- 高雄でもパークアンドライドをすぐやるべき。乗鞍岳ではすでにやっている。市内中心部への入口を防ぐことは出来ないが、実験的にまちなかなどで何箇所かできないのか。 |
| | | 全般 | 指標はこんな程度のものでよいのか。 ----- プライオリティに従って順番を並べる工夫を。 |
| | | 追加すべき指標 | 滞在日数を2泊の人の比率を上げるなどが考えられないか。 |
| | 市民と行政の役割分担と共汗 | 市民の役割 | 観光行政と市民という存在があるが、市民がどうすればステークホルダーとしての意識を持つことができるかが大切。 ----- 観光は府市連携でやっている。宇治など府下でも相乗効果を出していきたい。リピーター獲得など国際戦略を含めて連携でやっていきたい。今はコンベンションも一本化している。誘致などでより連携を高めていきたい。 |

第5回活性化部会における意見の分類

■テーマ 農林業

| 意見の分類 | 素案の内容 | 委員意見 | |
|-----------------|--|--|----------------------|
| 分野別方針記載項目に関する意見 | キャッチフレーズ | <p>人と生命と環境を育む京の農林業を目指す</p> <p>なぜ生命(いのち)を入れないといけないのか。農林業そのものに焦点をあてるべきでは。「人」、「生命」、「環境」が入っているのは違和感がある。</p> <p>いのちの視点も大切ではないか</p> | |
| | みんなで目指す10年後の姿 | <p>京の旬野菜の生産など環境に過度な負荷をかけない～</p> <p>環境の話がなぜここに入っているのか。</p> <p>ハウス栽培をしないとといったことでは。旬のものを食べましょうということでは。</p> | |
| | 二酸化炭素吸収につながる間伐等の森林の適切な整備 | <p>二酸化炭素を吸収すること自体はよいと思うが、木が持つほんの小さい機能である。もっと小さく書いてもらわないといけない。「二酸化炭素吸収にも寄与する」という程度。科学的に語るべき。</p> <p>例えば1万本の木があるうち、3千本間伐すると二酸化炭素を吸収する能力を失う。残った7千本の吸収能力が増えることで、全体として吸収能力が増えるということだろうが、分かりづらい。</p> | |
| | 京都ブランドなどを生かした付加価値の高い農林産物の生産や、効率的作業の実現等により所得が増大し～ | <p>生産量を増やすためにはニーズを増やす必要がある。今は、北山の杉や檜を使って床柱にするニーズが少ない。北山の木材を使うようなニーズの掘り起しが必要。生産面だけではなくニーズの促しの観点を。市民意識の変革も必要ではないか。</p> | |
| | 追加すべき内容 | <p>狭い土地でどのように効率的に生産していくか。技術を蓄積し、企業化することで、若い人が集まってくる。</p> <p>北山杉の輸出に目が向かないか。西陣織はイタリア製品より質が良いが、プロモートが十分でない。外国で宣伝して売ることができないか。</p> <p>産業分野で議論が無かったが、農業を工場生産する。いわば農業の第2次産業化である。二酸化炭素削減には全く寄与しないが、産業は活性化する。海外への輸出産業にもなりうる。</p> <p>京都で農業を展開するためには、環境に負荷をかけないことも大切では。例えば太陽電池の設備を活用するなど考えられないか。</p> <p>自然エネルギーの設備をつくるために、環境負荷が発生する面もある。</p> <p>京都の農業は近郊農業で、市街地に農地がある。一方、森林は山に囲まれている。京北、北山などで、市街に住む市民が林業に近づくような関係をつくらないといけない。農業、自然の大切さを認識することで、環境についての理解も深まるのではないか。</p> <p>観光はやることが見えている分野だが、産業・商業、農林業は共有できる目標がない。ゾーニングなど明確に書かないとみんなが共有できない。</p> <p>京都の農業は近郊農業。いわゆる農業は「ライスフィールド」のイメージがあるが、京都の農業とは異なるのでは。</p> <p>武蔵野で200年住宅建築のファイナンスの設立をやっている(ぐんま200年健康住宅)。林業と人のゆとりを両立させる試みである。今は、家のために人が一生懸命働いて稼がないといけない。</p> | |
| | 政策指標 | 法認定農業者 | 農業者の数を増やすほうがよいのか。 |
| | | 追加すべき指標 | 政策指標をよりさらに研究してもらいたい。 |

第5回活性化部会における意見の分類

■テーマ 農林業

| 意見の分類 | 素案の内容 | 委員意見 |
|-----------------|---------------|--|
| 分野別方針記載項目に関する意見 | 行政の役割 | <p>農林業をうまく分業できないか。担い手不足の問題解決になる。行政が思い切ってやる。面白いビジネスモデルになる。</p> <p>面白いビジネスモデルを実現させるための部署はどこか。壁がなく議論していくことができるのか。</p> <p>共汗の部分で市民と一緒に取組むなかで、分かりやすいシステムづくりを進めるために、行政はどのように制度づくりをやっていくのか。</p> <p>北山でモデル事業的にやればよいが、今の話だけでも市役所の部署の3つくらいにまたがるはず。アイデアが出たときに、積極的にどこが主導でやるのか。</p> |
| | 行政の役割, NPOの役割 | <p>分業と関わるかも知れないが、市場機能を強化する。生産者から直接買って売のような流通システムの見直し。NPOなどが役割を担い、行政が仕組みを支援する。もっと生産すればもっと売れるシステムにする。</p> |
| | 事業者の役割 | <p>建設業界は公共事業が減っており、疲弊している。冬は除雪などを副業としている。農林業も季節業であるし、分業の観点で建設業が参画し、ビジネスモデルにならないか。公共事業が減って困っている事業者を農林業に向ける。</p> <p>林業の機械化を進めるうえでは、建設業が関わることは非常に良い。</p> |

第5回活性化部会における意見の分類

■テーマ 大学

| 意見の分類 | 素案の内容 | 委員意見 |
|-----------------|--|--|
| 分野別方針記載項目に関する意見 | <p>キャッチフレーズ</p> <p>大学の集積が都市の活力を高め支えるまちづくりを推進する</p> | <p>集積によって町の活力を高める、のであれば分かる。まちづくりを更に推進するというのはゴロが悪い。活力を高めるのか、まちづくりを進めるのか、ポイントが絞れていない。</p> <p>まちづくり、という表現が不要かもしれない。</p> <p>大学の集積が都市の活力を高めるまちを目指す、など目指すものをストレートに持ってきたほうがよいと思う。</p> <p>この表現は現状を生かし、大学を逃がさないようにしようととらえられ、もう一つインパクトがない。また、少子化の影響などで、37大学が10年後維持されている可能性は少ないが、他都市に比べれば相対的に有利であることは事実。</p> |
| | <p>基本方針</p> | <p>都市間競争の中で京都に行きたいと思う学生を増やすことが重要。これが基本方針に書かれていない。この趣旨を盛り込んでもらいたい。京都を大学のまち、学生のまちにしたいのか、それとも学びのまちにしたいのか。京都をどちらに持っていくかとしているかが基本方針では物足りない。集積された、大学がたくさん集まっている町を目指すよりも京都のポテンシャルに魅力を感じて人が集まってくるのが大切ではないか。また、京都は大学のまちだが若者のまちでない、との意見について、若者に媚びる必要はない。若者が学びたいと思えるまちとなればよいと思う。</p> <p>京都に住んでいる学生が、京都に住んでよかったと思える政策が打てるかが大切。学生にいかにか集まってもらうか、学生のポテンシャルをいかに発揮してもらうかの2つの方向性が必要。</p> |
| | <p>現状・課題</p> <p>学生のエネルギーを高め、地域活動に活かし～</p> | <p>学生も共汗の対象と考えるならば、学生のエネルギーを高め、活かしというのは上からの目線ではないか。共に京都を作ってもらい、ととらえてはどうか。</p> <p>文章としてはどうしてもこうなるのではないか。</p> |
| | <p>みんなで目指す10年後の姿</p> <p>世界中に京都のまちや大学の魅力が発信され、～教育研究拠点機能や生活環境が充実している</p> | <p>京都は良いところというイメージがあるため、大学名に冠しているところも多い。それを本当に良いところであるとの実態につなげる必要がある。そうしなければ学生数の維持ができない。</p> <p>学生を集めるためのプロモーションを行うことを入れているかどうか。テレビや映画の影響は大きい。東山で空き家率が20%を超えているが、学生に住んでもらえるように、中学生、高校生やアジアなどにプロモーションすれば学生も集まるのではないか。その意気込みが必要。</p> <p>コンソーシアムでは高校生を対象に京都の大学をPRしている。</p> <p>修学旅行アドバイザーをしているが、必ず学食を食べるとアドバイスしている。京都の大学はポテンシャルがあり、中学生、高校生に対し、もっと京都のよさをアピールしてよいと思う。</p> |
| | <p>全国の学生の憧れ</p> | <p>卒業された学生が京都に就職、住んでもらう作戦が必要。</p> <p>人材を「世界へ」、「世界」の学生の憧れなど、世界を視野に入れてほしい。</p> |
| | <p>留学生の受入れが進んでいる</p> | <p>留学生受入れに住居の問題がネックになっている。市民として検討してみたが、なかなかうまくいかない。倍増するためのネックを解決する方法がなければ絵に描いた餅になる。</p> <p>小学校の統合により空き教室が出る。この改良などで留学生の住居を確保してはどうか。</p> |
| | <p>「みんなで目指す10年後の姿」全般</p> | <p>大学生、若者の人数が減る中で大学の経営が厳しいが、リタイアされた方も学ぶ欲求が大きい。こどもターゲットにしてはどうか。市民が一生学べるまちを作ることは可能だと思う。</p> <p>神戸や大阪の方が京都に学びに来られるが、京都の人が大阪で学ぶと聞く。もったいない。</p> <p>コンソーシアム自体で学生の企画に対して募集や補助を実施している。この枠を広げてもらいたい。</p> |

第5回活性化部会における意見の分類

■テーマ 大学

| 意見の分類 | 素案の内容 | 委員意見 |
|-----------------|-------------------|--|
| 分野別方針記載項目に関する意見 | 「みんなで目指す10年後の姿」全般 | <p>コンソーシアム京都のことが触れられていない。コンソーシアム京都は日本の中のモデル。それを京都としてもっとPRしては。独自の単位認定や世界への発信など、積極的に動いている。盛り込んでどうか。</p> <p>京都は観光都市であり大学のまち。大学も観光資源になるのではない。日本では行われていないが、アメリカでは行われている。京都の観光を多様化するためには、資源になりうる。</p> <p>修学旅行生が京都の有名大学を見学し、修学旅行生が大学生や教授の話の話を聞くということを言い続けているが、実現しない。修学旅行の目的からしても有意義だと思うが、進まない。組織的な取り組みができていない。</p> <p>京都府立大学が学生の保護者に対し、植物園などの案内を行った際に非常に人が集まった。ニーズはあると思う。</p> <p>年に2日だけ京都大学でオープンキャンパスを実施している。高校生を集めて模擬授業をしたり、学生の相談員を置いたりしている。年中やれるかは別として、柔軟に修学旅行生に対応できれば各大学にもメリットのある話。東京大学などはうまく実施している。観光と大学を一緒にしたときに出てくるアイデア。</p> <p>大学と観光の連携は重要。京都の観光のシーズンオフがちょうど夏休み、冬休みと重なる。修学旅行は2年先から動かないと押さえられないが、一般の方向けの講義などは、月ごとなどに実施できるのではない。</p> |
| 政策指標 | 留学生数 | 「留学生30万人計画」を考えると京都は2万人ぐらい受け入れなければならないのではない。 |
| | 追加すべき指標 | 留学生なども国際化と大学にまたがる指標かもしれない。一つの指標を複数分野に掲げてよいと思う。 |
| 市民と行政の役割分担 | 企業の役割 | <p>市民、学生、行政だけでなく、企業も主体に入れてほしい。産学連携など、京都にいる価値はそこにある。</p> <p>企業は学生だけでなく、大学の価値を高めるお手伝いができる。産学連携により働き口も確保できる。</p> |
| | 大学の役割 | リタイアされた直後、ミドルキャリアの方に大学もこたえようとする動きはある。市民の動きも必要。 |
| | 行政の役割 | <p>大学生を使う、動いてもらう仕掛けができないか。「場」があれば動く学生はいる。区役所レベルではあまりできていないと感じている。</p> <p>修学旅行生、大学が互いにやり取りができていない。京都産業大学では高校からの要請によって授業の空いている先生が出前講義を実施している。市がコーディネーターとなる窓口、仲介システムで後押しいただければ取組が進むと思う。</p> |
| | 学生、市民、企業の役割 | 学生は京都市の公の仕事にこれまで以上に関わり、市民、企業がこれらをサポートすることが必要。 |
| | 大学コンソーシアムの役割 | <p>大学(大学コンソーシアム)と主体を追記してはどうか。</p> <p>コンソーシアムも主体の一つとして位置付けてはどうか。大学の連携、京都の大学の魅力の発信には非常に大きな役割。</p> |

第5回活性化部会における意見の分類

■テーマ 国際化

| 意見の分類 | | 素案の内容 | 委員意見 |
|-----------------|---------------|---|---|
| 分野別方針記載項目に関する意見 | 基本方針 | | 国際化は、京都のまちを国際化したいのか、京都市民の感覚を国際化したいのか。国際規格に合わせていく都市構造を作っていくとしているのか。 |
| | みんなで目指す10年後の姿 | | 個々の企業の集客努力だけでなく、京都としてみんなで環境を整備することが大切。中国の方は中国語の案内があれば来る、男性が女性トイレを掃除するのはタブーなど、共有できる知識は多い。あまねく環境が整っているとの印象を与えることが大切。京都市としてマニュアルを作り、みんなで迎える体制を作ることが行政の役割ではないか。 |
| | 政策指標 | 世界歴史都市加盟都市数 | 世界都市連盟の加盟数を増やすという指標の意味は。直接京都市の中の国際化にどう関係するのか。COP3,水フォーラムなど、京都がこれまでリーダーシップをとってきたというウエイトは重い。その面では、参加都市が増えるほど京都のリーダーシップが世界に広がるので、私はこの指標は良いと思う。産業・観光面での効果もあるのではないか。 |
| | | | 指標だけではリーダーシップ発揮の背景を捉えにくい。その説明が必要ではないか。 |
| | | | 京都がコミットしている国際的な指標ということだが、二つのうちの一つとしては違和感がある。 |
| | | 国際交流会館登録ボランティア数 | 国際交流会館のボランティア数は日本人に限るのか。外国人の審議会参加なども含め、外国籍市民に京都のまちづくりを考えてもらう、という指標はどうか。 |
| | | 追加すべき指標 | 指標はこんなに少ないものなのか。海外からの参加ということを測る指標が観光にもない、必要ではないか。国際化には、京都を訪れる外国籍の方に京都に積極的に参加してもらう必要がある。外国籍の人のボランティア数を含めてもよいのではないか。留学生なども国際化と大学にまたがる指標かもしれない。国際会議や国際イベントなど、外国籍の方を訪れる機会を増やすことを掲げてはどうか。観光の分野には出てくるが、どちらに盛り込むのか。国際会議はMICEに含まれるが、国際文化祭典などは含まれない。国際的なイベントは観光でやることもあれば文化市民局で実施することもある。世界歴史都市会議のことを書くだけでなく、そういう指標があってもよいのではないか。国際交流、多文化事業に関する市民、NPOとの協働事業数や、市民レベルで多文化が息づく町を実感できる指標が必要ではないか。 |
| | 市民と行政の役割分担 | 大学、企業の役割 | 大学・企業の役割も必要。企業の役割は大きい。大学は留学生の受け入れでも活躍できる。 |
| | | 外国人、観光客の役割 | どこまで負担をかけられるかはあるが、外国人、観光客の役割が必要では。 |
| | | 市民の役割 | 外国籍の方は市民に含まれるのではないか。はずすのは問題。市民が国際化するということでは、英語や中国語を話すなど、市民の国際感覚を高めることを挙げてはどうか。指標としては難しいだろうから、市民の役割として。 |
| 市民、行政の役割 | | 京都市が外国人を受け入れる環境を作り、それにより市民が受け入れようと思うことが大切。 | |
| 全般 | | 主体をまとめると市民(外国籍市民含む)、大学・企業、行政の3つではないか。企業ではなく、お寺の役割も大きい。文化や精神性を知ってもらうには宗教家の役割が大切。企業・団体とすれば、宗教団体、NPO法人なども含むことができる。 | |

第5回活性化部会における意見の分類

■テーマ 行政経営の大綱

| 意見の分類 | 素案の内容 | 委員意見 |
|-------------------|-------------|---|
| 行政経営の大綱記載項目に関する意見 | 構成について | <p>他の分野と異なり、役割分担や目標が、この分野だけない。財政指標など直接的な指標は別途定めるにしても、何らかの指標は盛り込まないのか。</p> <p>もし指標を作るならば行政の成績表になるのか、それとも市民が満足したというものになるのか。最終的には、「住みよさ」や「転入増」などの指標も考えられる。</p> <p>職員数という指標もあるが、公のお金を使って公務員がやることだけでなく、NPO法人などの実績なども共汗の指標になりうる。最終的には京都市民でよかったと思ってもらうことが大切。</p> <p>潜在的な経済破綻、これまで市役所は随分頑張ってきたことなど、危機感を共有してはどうか。政策指標や役割分担はなくてもよいが、メッセージ性をもう少し高めてほしい。新しい京都のかたちとは何か、を融合委員会の結論を受けて具体化してもらいたい。</p> |
| | 地域主権時代を切り拓く | <p>地域主権時代を切り拓く、というのも具体性がない言葉。</p> <p>地域力、自治力を磨きあげる、地域主権時代を切り拓くために、行政経営システムをどう変えなければならないかという話だと思ふ。地域主権時代を切り拓く新しい行政システムの在り方を書けば、そのために10年間何をするのか、部局の整理までイメージがわいてくると思ふ。</p> |
| | 基本理念 | <p>基本理念での「京都市」とは何か。行政なのか、都市なのか。</p> <p>4つの基本方針の結果、どこに行こうとしているかが大切。そこで基本理念に戻ると、新しい京都市のかたち、としか書かれていない。「京都市」とは何で、「かたち」とは何なのか、を示すべきではないか。</p> <p>基本理念のところに目指すかたちを書いてほしい。基本理念は目指すかたちに行きつくまでのプロセスしか書かれていない。かたちを記載したうえで、それを実現するための基本方針であってほしい。</p> <p>これまでは住民参画、情報公開などどちらかと言えば行政が来てもらうという発想だったが、ここでは責任も「共有」し、住民が主役と、非常に思い切った書き方をされている。指標をどうするかは検討いただければと思ふが、あとは市民にいかに分かりやすく見える化するかが重要。</p> |
| 現状・課題 | | <p>地下鉄の赤字が原因ということで終わってはならず、一般財政も危機的状況ということを出さなければならない。</p> |
| 基本方針 | | <p>私の感想だが、どの方針も同じ分量で書かれている。夕張になってしまうえば裁量のサービスはカットになり、元気のいい人は出て行ってしまふ。5行程度の文章で、財政面の危機感をもっと前面に出し、基本理念に掲げてはどうか。分野別方針の根幹がこの大綱である。</p> <p>これまでに、無駄を削ろう(無駄のない)、市民と職員が関わろう(敷居の低い)という二つの方向で取り組んできた。その延長線上でこの目指す形が捉えられるのか。例えば、京都市が失敗した、間違いましたということホームページに書くというようなことはこの延長線上にはない。そのためには窓口職員より上の方の意識を変えていくことが必要。</p> <p>一つ一つは大切。しかし、これらを行政経営の大綱として書かれたときに、単に4つ並べるだけでよいのか。何か根本的なものが抜けているのではないか。たとえば市民の自治意識について、ほとんどの市民は市政に参加しない。市民参加の機会を一層拡充するというは、言葉としては良くできているが、実際に実行できているのか。もっと別のものがあるのではないか。市民レベルで行政経営の大綱を考えると、財政や組織改革が出てくると思ふが、順番としてこれでよいのか。私たちが分からなければ市民は更に分からないのではないか。市民の感覚では3、4が先かも知れない。</p> |

■テーマ 行政経営の大綱

| 意見の分類 | 素案の内容 | 委員意見 |
|-------------------|-------|--|
| 行政経営の大綱記載項目に関する意見 | | <p>他都市よりも頑張っていると私自身も感じる。が、表現は「あっそう」という感じだ。頑張っていることはきちんと書いたうえで、もっと頑張るべきところを書いてはどうか。問題があつて、それを乗り越えるような、ストーリー的な表現ができないか。</p> <p>京都には高層ビルを作らないなど、政策として自分たちで縛りをかけているところがあり、財政環境は悪い。だからこそ先進的な取り組みを実施している。それを京都市民がどれだけ実感しているかが大切で、危機意識の共有が必要。頑張っていることは照れずに書いてもよい。</p> <p>書いている内容が王道で教科書的。たとえば財政を冒頭に掲げ、危機意識の共有を求めるならば書き方が変わってくる。</p> <p>ここまで頑張ったが厳しいので、市民に協力を求めるということではないか。</p> <p>市役所の人数をどうするのかなどの分かりやすいイメージを出したうえで、市民の負担の軽減を伝え、協働を求めてはどうか。</p> <p>市職員だけでなく、市議会議員の人数も含めて考えなければならぬのではないか。</p> <p>京都府と京都市はどちらでもよい、というのが市民の感覚。観光でも府、市、商工会議所など様々に取り組んでおられる。もっと連携し、スリムになれるのではと感じる。それをあえて書いてはどうか。(連携していることは)十分に理解しているが、更に協力できることはしていただければと思う。</p> <p>京都府と京都市の関係について、市民の感覚としては当然の感覚。基礎的自治体が身近なことをすることが基本。政令市には特にその権限があり、府はそれらを応分の負担により支えることが役割。府が市民から見えにくいのはその通り。ただし京都市以外の自治体では土木などで顔が見えやすいことはある。また、河川等の広域的なことは京都府が持っている。一緒になって市民を支えていることは御理解いただきたい。</p> |